

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	湘北短期大学	整理番号	2-3-005
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	国際交流体験教育の多面的展開 —実践的コミュニケーション能力育成プログラム—		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	黒崎 真由美		
<p>(取組の概要)</p> <p>「英語に触れさせる」ことを通じて英語コミュニケーション力を養成する取組である。姉妹校協定を結ぶ豪州の 2 大学との間で、本学学生の 3 ヶ月留学／3 週間研修、豪州学生の 2 週間研修旅行受入、という双方向交流を長年継続している。特に前者では姉妹校教員を前期に本学に招聘し、日本で指導した学生が後期に留学するとき、現地でそのケアにあたるというユニークな仕組みを持つ。また後者では国際交流委員会という学生組織が受入プログラムの企画・実行にあたる。この活動により学生は英語のみならず、企画力や行動力を身に付けるとともに、日本の文化への理解を深めている。またその多彩なイベントは本学の一般学生はもとより、高校生や近隣市民にも開放されており、地域社会への貢献も果たしている。このほか誰でも気軽に英語が話せるイングリッシュラウンジ、高校生、大学・短大生を対象とする英語スピーチコンテストなど、多面的な取組を活発に行っている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、国際的なコミュニケーション能力を涵養するという教育目標を達成するために、「国際交流体験をベースとした教育により、たとえ未熟な語学力であっても臆せず対話できる、実践的な国際コミュニケーション能力を育成すること」をめざし、昭和 63 年から実施されている取組です。</p> <p>総合ビジネス学科の 3 ヶ月留学、全学科を対象にした短期海外研修、海外学生の受け入れ、イングリッシュラウンジ、英語スピーチコンテストなどの具体的取組の事例は、英語系の学科を持たない短期大学にも参考になる取組であると評価できます。また、グローバルコミュニケーションセンターを中心に全学的な取組がなされており、学生の負担を軽減するための種々の配慮がなされています。さらに学生主体の「国際交流委員会」により、学生が主体的に参加できる仕組みがとられており、地域社会や近隣の教育機関との連携においても成果が上がっています。</p> <p>今後は、このような国際交流体験によって高められた学生のモチベーションを、外国語能力の向上に結びつける語学教育の開発・発展に向けて、一層の努力と工夫を重ねることを期待します。</p>			